第15回

『とよなか発／子ども・いのち』

インクルーシブ教育を考えるシンポジウム 2017

豊中では40年近くにわたり、「障害」のある子もない子も地域の学校で、同じクラスでともに生活し、ともに学び、ともに育つことを大切にした教育を進めてきました。

昨年4月には「障害者差別解消法」が施行されました。また、「豊中市障害児教育基本方針」も改定され、基本方針がめざすインクルーシブ教育の目的のひとつとして「共生社会の形成」を示すとともに、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をさらに充実・発展させるとしています。今回のシンポジウムでは改めて「共生社会」の実現にむけたとりくみやともに地域の学校で学ぶことの意義を一緒に考えていきたいと思います。

とき **2月18日 土**　**入場無料**

午後1時30分～4時30分　**<受付:午後1時～>**

ところ **豊中市立大池小学校　体育館**

（豊中市本町1−7−12　阪急宝塚線「豊中駅」下車 東へ約100m）

インクルーシブ教育とは

「障害」のあるなしで学ぶ場を分けるのではなく、すべての子どもが普通学級で学び、その子の必要に応じた支援を行う教育。

第一部 講　演

「ともに地域で生きること、学校で学ぶこと」

～ 相模原事件と命の重み ～

講師 立岩　真也 さん（社会学者・立命館大学大学院 先端総合学術研究科　教授）

第二部 パネルディスカッション

コーディネーター　遠藤 哲也さん（毎日新聞社 学芸部 副部長）

パネリスト　立岩 真也さん（社会学者・立命館大学大学院 先端総合学術研究科　教授）　花原 さおりさん（保護者）

鍛冶 克哉さん（自立生活センター　メインストリーム協会　スタッフ）　阪本 珠生さん（豊中市立南桜塚小学校 教員）

主催：豊中市教職員組合、毎日新聞社

後援：豊中市、豊中市教育委員会、豊中市 PTA 連合協議会、豊中市人権教育推進委員協議会、豊中市社会福祉協議会、豊中市身体不自由児者父母の会、豊中市手をつなぐ育成会、ピープルウォーク（自閉症・発達障がい者等支援の会）、「障害」児・者の生活と進路を考える会、国障年豊中市民会議、障害者問題資料センターりぼん社、インクルーシブ(共生)教育研究所

【問い合わせ】　豊中市教職員組合　TEL 06−6863−1600　FAX 06−6863−2721
メールアドレス　ttu-toyokyoso@peace.zaq.jp